

事業名称	神戸の文化資源の活用と人材育成		
実行委員会	神戸の文化発信実行委員会		
中核館	神戸市立博物館		
	住所	〒650-0034 神戸市中央区京町 24 番地	
	TEL	078-391-0035	FAX 078-392-7054
	ホームページ	<a href="http://www.city.kobe.lg.jp/museum/">http://www.city.kobe.lg.jp/museum/</a>	
構成団体	神戸市立小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館、神戸ファッション美術館、BB プラザ美術館、公益財団法人 竹中大工道具館、公立大学法人 神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学		
事業開始時点の課題分析	<p>昨年開港 150 年目を迎え、日本の近代化に向けて培われてきた歴史的な文化資源に注目が集まる中で、当「神戸の文化発信実行委員会」では開港 150 年をキーワードとして神戸の歴史、文化、芸術へより興味深く触れ合ってもらえるような事業を展開してきた。これには一定の成果があったことと思われる。しかし、これらの取り組みは一過性のものでなく、継続して行わなければならないと考えている。また、神戸およびその近隣には奈良時代に創建された寺院など、近代化以前の長い歴史を持つ地域や文化資源が数多く存在しているにもかかわらず、いわゆる港町神戸のイメージからは離れているため、これらの文化資源の多くは注目されることも少なく、その地域に興味を持って訪れる人も多くはない。これらの文化資源や地域にスポットを当てて取り上げ、多くの人に興味を持ってもらうことはできないのか。それができれば、神戸というエリア（神戸及びその近隣）が持つ歴史・文化・芸術の深みが一層増すのではないだろうか。また、対象として一般の方に興味を持ってもらうのはもちろんのことだが、子供たち、そして外国人にも神戸の文化資源を深く味わってもらえるようなプログラムが必要なのではないか。加えて、平成 29 年度は神戸エリアにある美術館、博物館、文化施設、大学が連携し、それぞれの専門性を発揮して事業を企画してきたが、この取り組みもまだまだ発展途上であり、今後各施設が地域との密接な結びつきを築きつつ、更なる共働を図っていく必要があると考えられる。</p>		
事業目的	<p>さまざまな神戸の文化資源について、体験活動を通じて継続して興味を持ってもらえるようなフィールドワークやワークショップなどの取り組みを行い、深みのある神戸エリアの魅力を多くの人に発信する。取り上げる文化資源は特定のジャンルや時代に拘らず、これまで注目されることが少なかったものを積極的に選び、各地域との繋がりを目指して重点に置いて幅広く設定する。特に子供を対象とした活動、外国人を対象とした活動を企画し、これまで希薄であった子供たちと地域、外国人と地域の結びつきを図る。充実した取り組みが行えるよう美術館、博物館、大学等がそれぞれの専門性を発揮して、協力しながら各プログラムの企画・運営にあたり、各施設の連携を深めていく。神戸の文化資源を未来にわたって十分に活用していけるような人材育成に貢献する観点からも、子供を対象としたプログラムは複数企画し、その充実を図る。また、教員及び教育普及活動に興味を持つひとを対象としたワークショップを連続して開催し、美術館、博物館等の文化施設と学校との結びつきを確かなものにして行く機会を作り共働できる関係を築けるようにする。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>神戸市及び近隣の地域に存する異人館等の神戸開港以降の近代化文化資源、及び、それまでの長い歴史の中で培われてきた歴史的寺院や茅葺民家等の文化資源について、広く一般の方に体験活動を通じて理解を深め、その地域の魅力を感じてもらおう。また、外国人に対しては、外国人向けのプログラムの実施や印刷物を通じて、神戸の文化資源を紹介することで、日本文化への興味・理解を高める。子供たちに対しては、歴史ある文化的建造物を会場とした子供たちと造形作家によるワークショップの開催や、美術館と地域の子供たちを結ぶアートイベントを実施し、文化資源や地域と子供たちの繋がりを深める活動を行う。神戸市及び近隣の地域の文化施設が連携し、各施設の特性を活かしながら教員や教育普及活動に興味のある人を対象としたワークショップを実施し、ミュージアムと学校の連携を図り、ミュージアムと子供たちとの繋がりを深める。</p>
<p>区分</p>	<p>(1) 地域の歴史、地域の有形無形の文化財との連携、地域の人材交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 地域の文化財の魅力発信</li> <li>■イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実</li> <li>■ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化</li> <li>■エ 専門人材の育成・確保</li> </ul> <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施</li> <li>■イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動</li> </ul>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 神戸の文化資源を探り体験する活動</p> <p>(1) 学芸員と神戸の文化資源を巡るフィールドワークの開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の広報</li> <li>② フィールドワークの実施</li> </ol> <p>(2) 明治時代の異人館での生活空間体験会の開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の広報</li> <li>② 生活体験会の開催</li> </ol> <p>2. 外国人に神戸の文化資源を紹介する活動</p> <p>(1) 茅葺民家での日本文化体験会の開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の広報</li> <li>② 体験会の開催</li> </ol> <p>(2) 英文印刷物の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 旧居留地案内英文ガイドマップの作成</li> <li>② 美術館展示案内英文パンフレットの作成</li> </ol> <p>3. 文化・アートを通じて地域・子供・ミュージアムを繋ぐ活動</p> <p>(1) 文化資源を活用した造形作家と子供たちの共同制作</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の広報</li> <li>② ワークショップの開催</li> </ol> <p>(2) 美術館と地域の子供たちを繋ぐアートイベントの開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の広報</li> <li>② イベントの開催</li> </ol> <p>(3) 各施設の特長を活かしたミュージアム連携ワークショップの開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 開催の広報</li> <li>② ワークショップの開催</li> </ol>

実施後の  
成果・効果等

神戸の文化資源の活用と人材育成を目指して、博物館、美術館、大学が連携して事業を行うことにより、各館のスタッフが有する特別な知識や技術を相互に提供し、事業を充実したものへと導く成果が得られるとともに、参加者、スタッフ、講師といった人びとや場所への新たな繋がりや広がりがもたらされた。

神戸の文化資源を探り体験する活動として、平家物語ゆかりの地や旧街道を訪れ、また近代建築や街の中に置かれたパブリックアートの鑑賞、絵画に描かれた異人館の風景の探索など、学芸員による事前学習の後に現地を巡ったフィールドワークでは、各回ワークシートに工夫をこらし、参加者の自発的な活動を促すことにより歴史及び文化資源に対する理解を深めてもらった。参加者のアンケートの「よかった」「まあよかった」は8割以上であり、通常では気付くことがなかった、さまざまな神戸の魅力を再発見し、深く感じる事ができたという意見が複数あった。

明治時代の異人館「旧ハッサム住宅」（重要文化財）を擁する「相樂園」においては、衣・食・住から、明治時代の神戸に暮らした外国人の暮らしに触れるというコンセプトで神戸市立博物館と神戸松蔭女子学院大学が連携して事業を行った。「旧ハッサム住宅」についての解説や「旧小寺家厩舎」（国指定重要文化財）の見学、前年度に神戸市立博物館の資料「和洋菓子製法独案内」（1896年刊）に基づいて開発したレシピにより製作した洋菓子の配布と、レシピの開発及び菓子製作の使用材料の歴史的背景や製作過程等のレクチャーを実施し、レクチャー後は活発な質疑応答がなされた。また、前年度に再現製作した、神戸市立博物館所蔵の錦絵「貴頭舞踏の略図」に描かれたバンスルドレスの着装体験とレクチャーを行い、重層的に明治時代の生活空間を演出したことで、神戸の文化資源の魅力を伝える事ができた。アンケートの「よかった」「まあよかった」の評価は9割以上であり、明治時代の文献について知ることができた、ドレスやお菓子で当時の様子を五感で味わえたのがとても楽しかった、興味深い内容だったといった意見があった。

外国人に神戸の文化資源を紹介する活動としては、茅葺き民家（内田家住宅：兵庫県指定重要有形文化財）で日本文化（かまどでの羽釜による炊飯、おにぎり作り、座敷での書道のワークショップ）を体験していただいた。アンケートによる評価は「とても楽しめた」が10割の高評価であり、全てが素晴らしく良く準備ができていた、興味深く学び、貴重な体験ができた。現代ではなく、1880年代にいたようだった、このワークショップで歴史的解説も聞くことができてよかった、などのコメントがあった。ワークショップ終了後には、参加した人やアメリカ領事館の職員から、次のワークショップの時期についての問合せと、次の機会があるなら必ず連絡してほしいなどの反響があった。さらに、美術館の施設や所蔵品を英語で解説したパンフレット、神戸の特色のひとつでもある旧居留地のガイドマップの英語版を作製して、外国人に向けて日本の文化や歴史を発信するツールを作成したことで、今後の美術館活動や神戸の歴史に関する情報発信に新たな手段と魅力を加える事ができた。

文化・アートを通じて地域・子供・ミュージアムを繋ぐ活動では、自然豊かな太山寺（神戸市西区）の境内において、現代美術家の直径8メートルの巨大な傘の作品を展示し、寺院と現代美術がコラボレーションする個性的な空間を創りだした。現地での聞き取り調査によると、この試みが寺院を訪れた一般の人びとに清新な印象と驚きを与える効果があったことがわかった。あわせて、子供たちが作家の作品に倣ったミニチュアの

傘作品を作るワークショップを阿弥陀堂で実施し、太山寺の住職、現代美術家、子供をはじめとする参加者たちが出会い、交流した。

小磯記念美術館の前庭で開催したアートイベントは、どんぐりを通貨にして子供たちが複数のワークショップを楽しむことができるという仕組みで運営し、多くの子供たちがさまざまな制作に打ち込んだ。また、美術館で展示されている絵画を鑑賞し、学芸員から与えられたミッションを絵画のなかから見つけ出すというワークショップも実施した。同アートイベントのワークショップブースを企画・実施した人々のアンケートには、子供たちと触れ合うことの楽しさと伝えることの難しさを実感し、いかにしてワークショップを成功させ、魅力あるものにするかという課題や刺戟を与えられたというコメントがあり、次のワークショップに向けての検討やさらなる発展が期待される。

各施設の特長を活かしたミュージアム連携ワークショップでは、12の美術館、博物館が連携してワークショップを開催し、それぞれのワークショップの企画や実施について協力館の学芸員たちが相互に学ぶことができた。参加者は、小学校から大学、養護学校、盲学校などの教育現場の職員や一般企業、各美術館のボランティア、新聞社に所属する人などさまざまであり、それぞれの職場や現場において、ワークショップをヒントにした取り組みを考えてみたいという意見や、その後、学校の授業でワークショップそのものが取り入れられるといった効果や影響力があった。